

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

〈月報〉
平成18年5月
(第18～21週)

発行年月日:平成18年(2006年) 6月 14日
発行 行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-3050 FAX 077-537-5548

1)全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 18年		平成 17年		感染症 類型	疾 病 名	平成 18年		平成 17年	
		1～5月	全 国	1～12月	全 国			1～5月	全 国	1～12月	全 国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	デング熱	0	15	1	73
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	2	0	62
	痘そう	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	7
	ペスト	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0
二類	ラッサ熱	0	0	0	0		ブルセラ症	0	1	0	2
	急性灰白髄炎	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0
	コレラ	0	16	0	54		ボツリヌス症	0	1	0	3
	細菌性赤痢	*12	177	*27	556		マラリア	0	19	0	66
	ジフテリア	0	0	0	0		野兔病	0	0	0	0
	腸チフス	0	36	0	50		ライム病	0	0	0	8
三類	パラチフス	0	12	0	18		レジオネラ症	4	136	3	276
腸管出血性大腸菌感染症	3	391	12	3567	レプトスピラ症		0	0	0	15	
四類	E型肝炎	0	32	0	40	五類	アメーバ赤痢	3	262	5	680
	ウエストナイル熱	0	0	0	1		ウイルス性肝炎	0	88	2	277
	A型肝炎	1	168	1	168		急性脳炎	1	83	2	180
	エキノコックス症	0	10	0	18		クリプトスポリジウム症	0	7	0	9
	黄熱	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	0	72	2	147
	オウム病	0	9	1	34		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	4	52	0	60
	回帰熱	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	3	436	7	1161
	Q熱	0	0	0	8		ジアルジア症	0	32	0	81
	狂犬病	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	7	0	10
	高病原性鳥インフルエンザ	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	2
	コクシジオイデス症	0	0	0	5		梅毒	2	230	0	555
	サル痘	0	0	0	0		破傷風	0	26	0	114
	腎症候性出血熱	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	1	0	0
	炭疽	0	0	0	0		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	29	2	65
	つつが虫病	0	62	0	325						

滋賀県における全数報告 感染症の概要(5月)

<腸管出血性大腸菌感染症>

女性・21歳、女性・24歳
血清型:2名ともO157
毒素型:1名はVT1(+）・VT2(+)
1名はVT1(-）・VT2(+)

感染原因・感染経路については、
2名とも不明。

<レジオネラ症>

男性・79歳

診断時の症状は発熱、咳、呼吸困難
肺炎です。推定される感染地域は日
本国内ですが推定される感染経路等
については不明。

<劇症型溶血性レンサ球菌感染症>

男性・44歳

診断時の症状はショック、腎不全、
DIC等です。推定される感染地域は
日本ですが推定される感染経路等
については不明。

<後天性免疫不全症候群>

男性・32歳、男性・39歳

臨床診断は1名はAIDS、他の1名は
無症候性キャリアです。感染経路は
2名とも性的接触です。また、推定感
染地域はブラジル、ベトナム等です。

*1 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含む、

*2 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含む

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点に分かれています。

5月の概要

<インフルエンザ定点>

前月(第14~17週)からの微増傾向が持続し、第18週(5/1~5/7)の定点当たり患者数は1.37となりました。第19~21週(5/8~5/28)の定点当たり患者数は0.53~0.94で推移しており、特に、第19週以降は高島保健所管内において増加傾向を示していました。また、第18~21週における年齢別発生状況は下記のグラフのとおりです。

<小児科定点疾患>

咽頭結膜熱、A群溶レン菌咽頭炎および伝染性紅斑は昨年と同時期よりかなり多くなっており、特に、咽頭結膜熱は天津で非常に多くなっていました。感染性胃腸炎、手足口病およびヘルパンギーナは昨年とほぼ同様の発生状況を示していました。また、滋賀県における麻疹の発生については小児科定点からの報告はありませんでしたが、全国の発生動向調査によると茨城県、千葉県等において地域的な流行が発生していました。

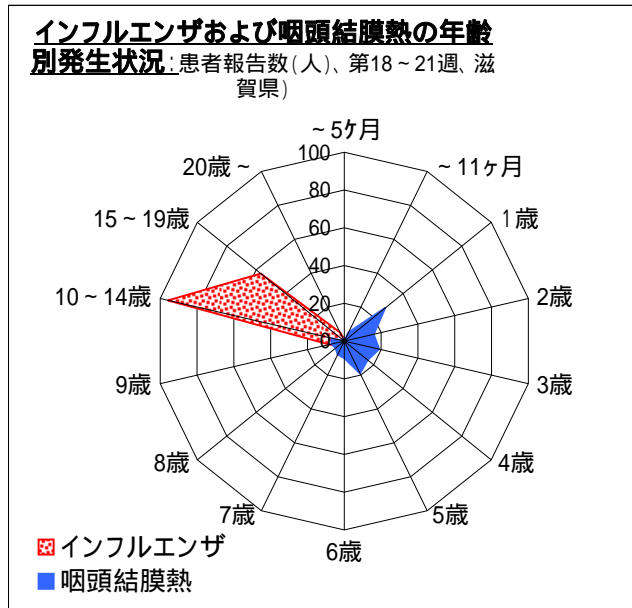
滋賀県における第18~21週の咽頭結膜熱の年齢別発生状況は下記のグラフのとおりです。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

例年とほぼ同様の発生状況を示していました。

<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、咽頭結膜熱、A群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳、突発性発しん、ヘルパンギーナ、風しん(三日はしか)、麻しん、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、成人麻しん、クラミジア肺炎(オウム病を除く)



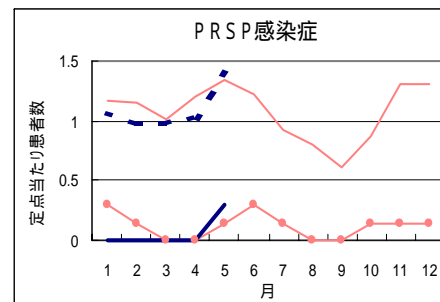
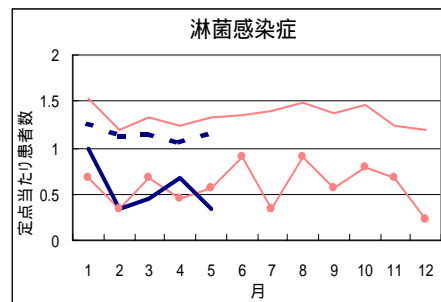
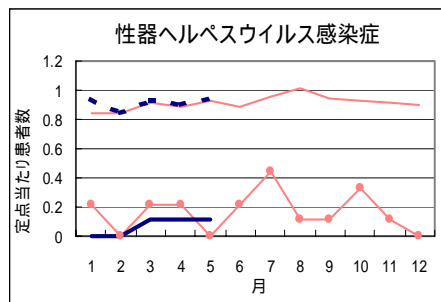
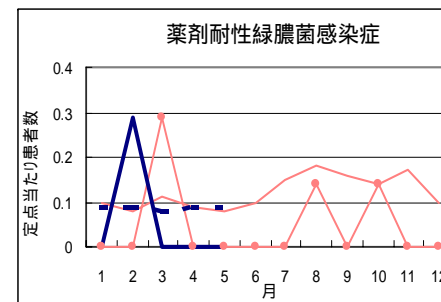
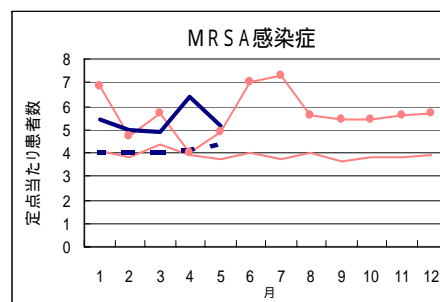
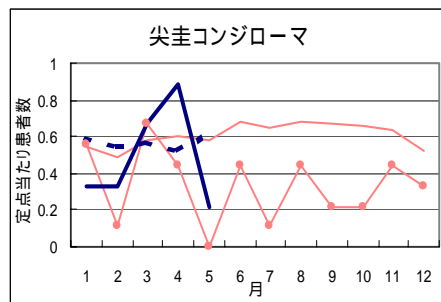
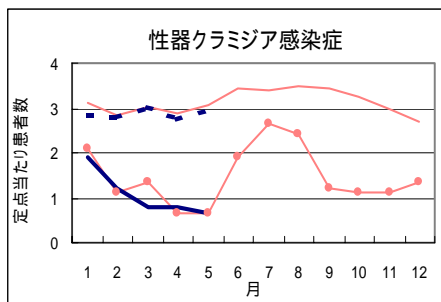
第18~21週におけるインフルエンザの年齢別発生状況についてみると、10~14歳および15~19歳に集中しています。同時期の全国における発生動向調査においても10~14歳の患者報告数が最も多くなっており、インフルエンザウイルスB型の報告数も増加しています。

また、咽頭結膜熱の年齢別発生状況についてみると、1~5歳で多くっており全国の発生状況と同様の傾向を示しています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成18年5月)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
性器クラミジア感染症	罹患数	17	11	7	7	6								48
	定点当たり	1.89	1.22	0.78	0.78	0.67								1.07
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	0	0	1	1	1								3
	定点当たり	0	0	0.11	0.11	0.11								0.07
尖圭コンジローマ	罹患数	3	3	6	8	2								22
	定点当たり	0.33	0.33	0.67	0.89	0.22								0.49
淋菌感染症	罹患数	9	3	4	6	3								25
	定点当たり	1	0.33	0.44	0.67	0.33								0.55
MRSA感染症	罹患数	38	35	34	45	36								188
	定点当たり	5.43	5.00	4.86	6.43	5.14								5.37
PRSP感染症	罹患数	0	0	0	0	2								2
	定点当たり	0	0	0	0	0.29								0.06
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	2	0	0	0								2
	定点当たり	0	2.00	0	0	0								0.40

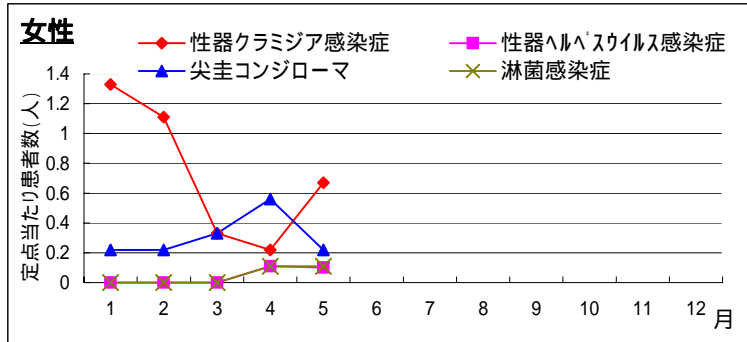
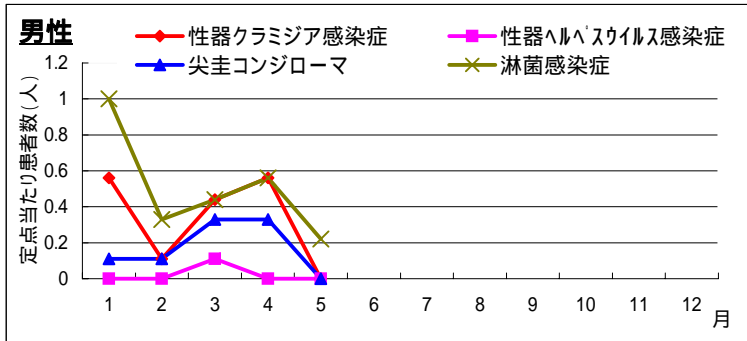


戻る

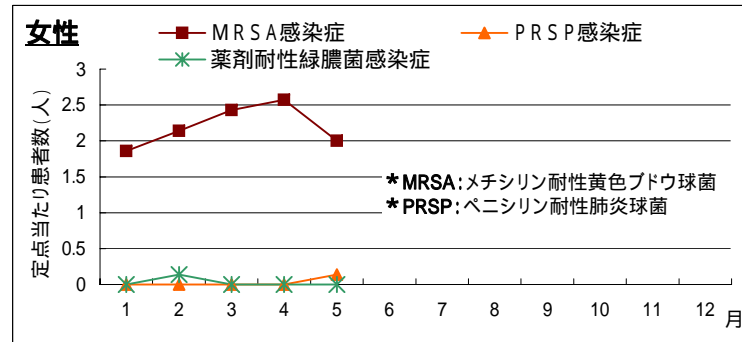
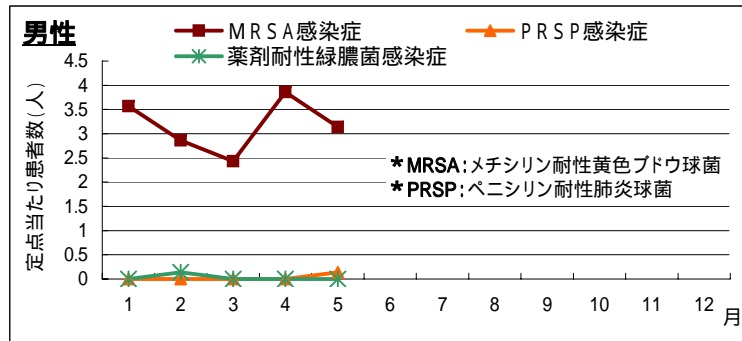
- H17 { 滋賀 ●●●●●
- { 全国 ————
- H18 { 滋賀 ●●●●●
- { 全国 ●●●●●

MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況 (H18.5)

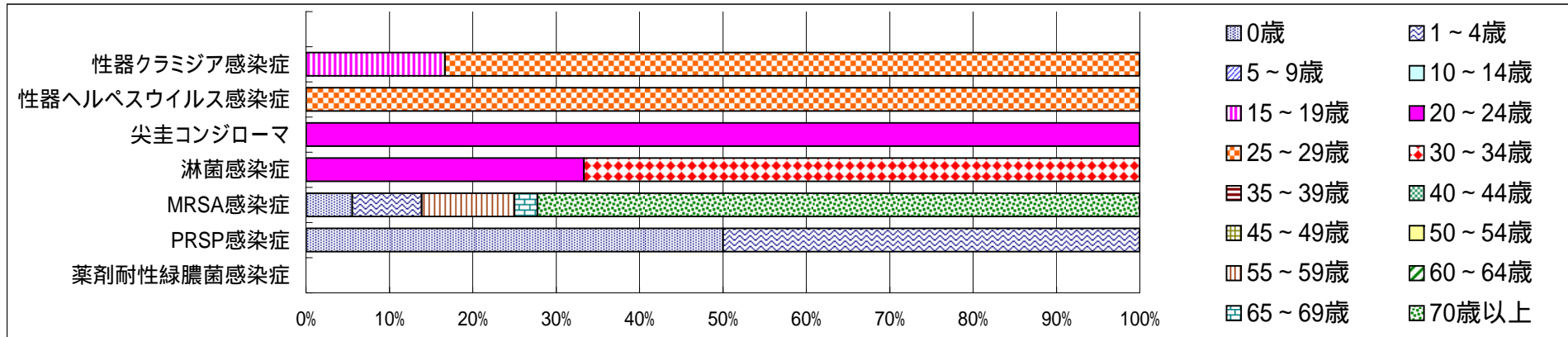


基幹定点における疾患別発生状況 (H18.5)

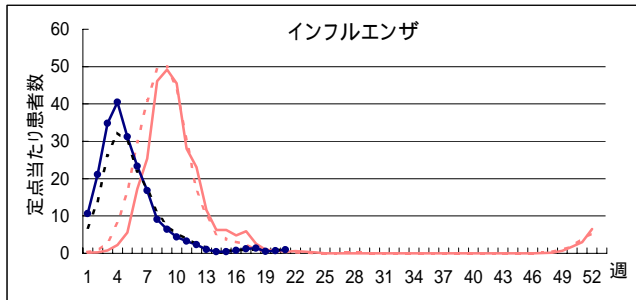


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、尖圭コンジローマ、淋菌感染症およびMRSA感染症は減少し、PRSP感染症は増加していますが、他の疾患については大きな変化はみられません(詳細については性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況のグラフ参照)。
また、各疾患の月別・性別発生状況は左記のグラフのとおりです。性器クラミジア感染症は全体としては先月よりやや少なくなっていますが、女性で急増し男性で急減しています。

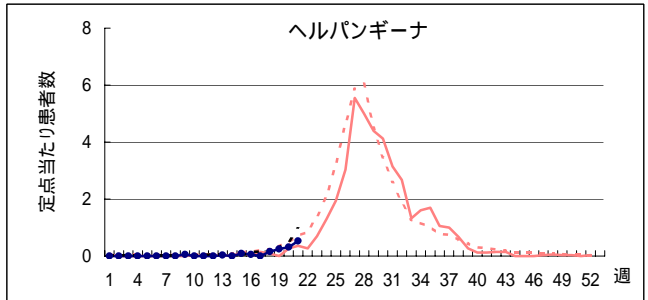
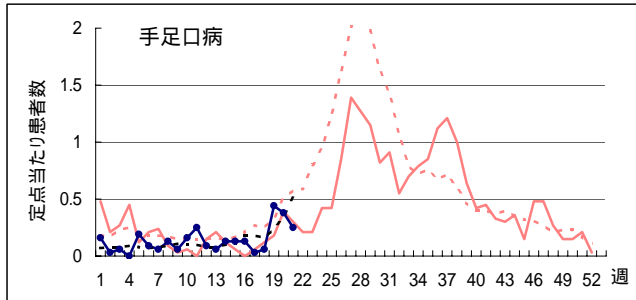
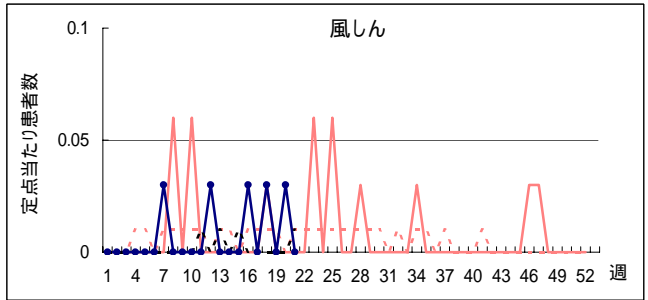
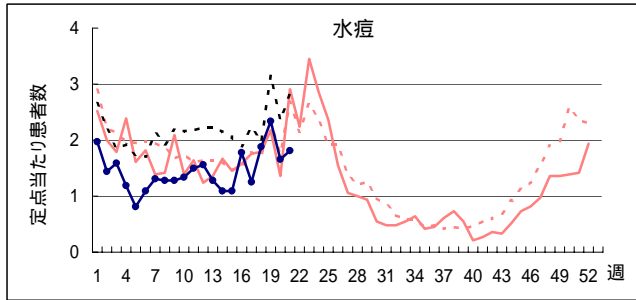
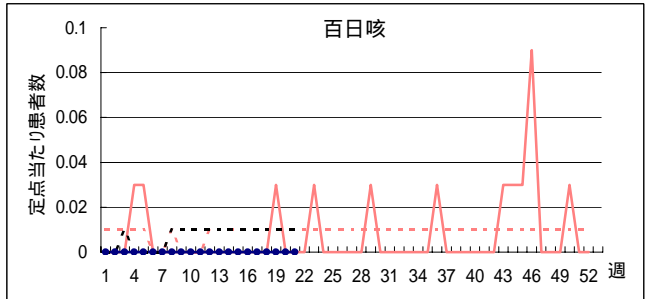
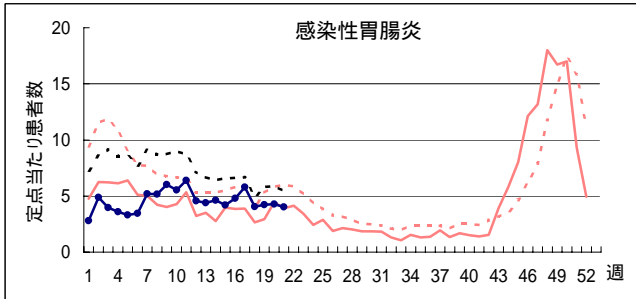
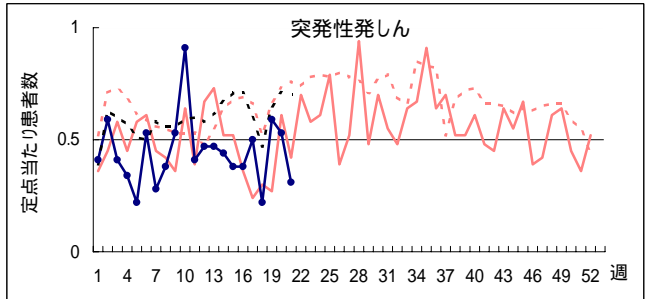
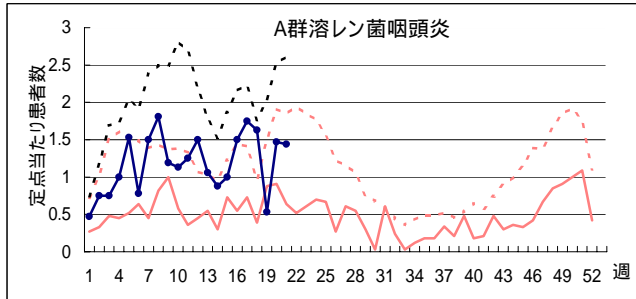
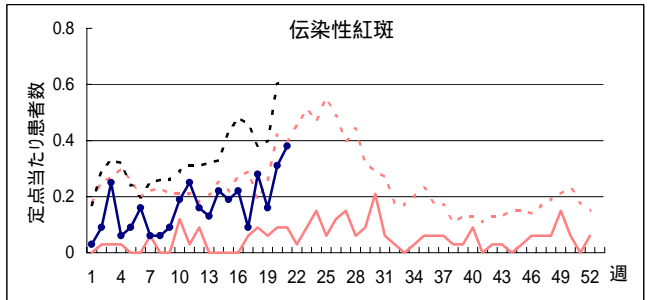
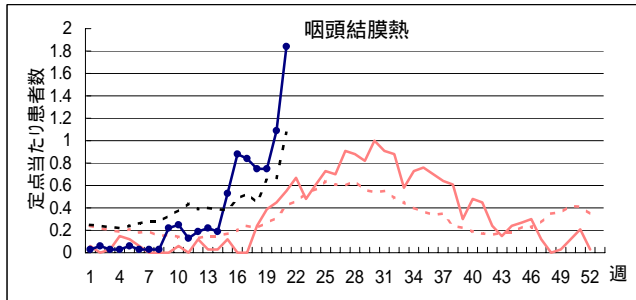
疾患別・年齢別発生状況(H18.5)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第21週、H18.1.2～H18.5.28)



H17 〔 滋賀 ————
 全国 - - - - -
 H18 〔 滋賀 ●—●—
 全国 - - - - -



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第21週、H18.1.2～H18.5.28)

H17 { 滋賀 ————
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●—●—●—
全国 - - - - -

